

長寿NST ニュースレター

平成 25 年 7 月

第 1 回 NST勉強会 《NSTを活用しよう》

平成 25 年 6 月 19 日に今年度第 1 回の栄養サポートチーム (NST) 勉強会が行われました。昨年度の NST 勉強会は「栄養とサルコペニアの研修会」として院外講師を招いて、あいち健康プラザヘルスサイエンスシアターで行いましたので、院内での勉強会は一年ぶりになりました。参加者は 68 名で、多くの職種の方の参加がありました。

はじめに若松主任栄養士から「電子カルテで便利に NST をフル活用」と題して、新採用者の方に向けてメンバー紹介と活動内容について説明がありました。NST への依頼の手順と“NST ラウンド表”の記載について詳しく説明がありました。“NST ラウンド表”の検査、薬剤、栄養、看護からの情報がないと NST チームとしての評価や助言が行えませんので必ず記入することが大切です。また、NST ラウンドは毎週水曜日の 14 時 30 分から行っていますので参加してください。

次に原田言語聴覚士から「在宅での食事環境整備の際に NST が介入した摂食障害

患者の一例」と題して、機能回復診療部、看護師、NST の協力の結果“3 食経口摂取での退院が可能となった症例”の報告がありました。

まず、VE 検査の結果も含めて評価の必要性について詳しい説明がありました。その後 NST 介入で、「食種と補助食の選択、必要カロリー量の選択、栄養状態の評価」が行われた経過説明がされました。結果的には、必要カロリーの摂取が可能で、患者の「食」への満足も満たす事ができる「酵素均質浸透法を用いた食品」を導入し安定した経口摂取量が確保できるようになりました。NST 回診では、①看護師からの実際の食事場面の情報提供②嚥下機能評価③検査値の報告④薬剤投与状況が大切になります。それぞれの職種の協力が大切です。



最後に渡邊医師からアセスメントについて、栄養評価と栄養量算定からの説明がありました。栄養評価については、体重、BMI、SGA、ODA、評価のツールについての説明がありました。栄養量の算定については、練習問題から事例の患者さんに必要なエネルギー量、蛋白量、水分量を考え、それぞれ算出しました。現在の状態からだけの判断ではなく、前と比較した判断が重要であると説明がありました。結論として栄養管理は、評価→計画→実行→再評価の繰り返しであることがわかりました。

みなさん、現場で困ることがあったら、気軽に NST に依頼を出してください。“わからないなあ”と迷っているより、専門家の知恵を活用しませんか？。



第 19 回 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術集会 2013 年 9 月 22 日から 23 日

会場 川崎医療福祉大学(岡山県)

以上の日程で開催されます。ご興味のある方は是非参加してみてください。